

# 園長だより NO82

## コロナ禍中で思うこと

先週末、4・5歳児の運動会を行いました。コロナ禍中で3回目の運動会となります。感染対策を講じ規模の縮小、参加者の制限など保護者の皆様のご理解を得ての開催でした。

一般社会では様々な規制も緩和され徐々に社会生活も微小ではあるが戻りつつあります。

先日、国立競技場でラグビー日本代表とニュージーランドの試合が行われ6万5千人ほどの観客が観戦したと報道されていました。

この状況だけをみればほぼ以前と変わらぬようだと感じます。保育園を一步出れば、スポーツに限らずライブ関係も行われて、コロナ対策がより一層緩和されるのか期待感を抱かせる環境になってきました。

しかし、子どもたちの生活する環境では、まだまだ、慎重な姿勢が維持されています。児童に感染者が確認されれば学級閉鎖での対応となり、閉鎖をしなければ瞬く間に感染は拡大してしまう結果になる。スポーツ観戦やライブ、旅行に行っている大人は意識して感染対策を講じられるが児童には限界がある、乳児ともなれば意識する余地もなく、大人との行動を共にする結果になる。ワクチンの接種率も低い世代では万が一に備えなければ大きな事になってしまう。学校関係や乳幼児の施設では慎重になるのも当然のことと思っています。



2022.11.1

## 七五三

そんな中で運動会の開催、子どもたちの活動的な姿に目頭が熱くなるのを覚えると共に数日間、児童、保護者の健康状況に変化がないことを願い、経過をみる。数日後、感染者0と確認すると安堵する。

先が見えないのコロナ対策、いつになったら平時に戻るのだろうか？ このままの状態を維持しながら進むのだろうか？

保育園では生活する児童はまだ守られるべき存在であることから一般社会のような規制、制限の緩和には今後も慎重に対応する姿勢は継続していきます。

昨今、手足口病、プール熱、RSウイルス、ヒト・メタニューモ感染症などの感染が蔓延している。医師からは「だたの風邪でしょう」と言われる傾向が多いが、あなどれない瞬く間に感染し児童に流行してしまう。

コロナと同様に注視して対応していかなければならない。

当面は大きな変化はなく従前と変わらぬ忍耐強さでコロナ対策を継続していかなくてはなりません。

子どもたちの生活を歪ませてはならないことを肝に銘じながら、子どもたちの生活を「より楽しい、楽しめる」ものになるようにしていかななくてはなりません。



この時期、華やかな着物をきて神社に参拝している子どもの姿を目にする。

七五三といえば11月15日に参拝しご祈禱していただくものですが一日に集中せず分散して行く傾向にあります。各家庭の生活スタイルに合わせ、子どもの成長をお祝いしているようです。

七五三の由来は諸説あるようです。かなり多くあるようで調べる気にはなりません。

小さいころ祖母から聞かされたことを思い返すと古い時代は子どもたちが早くに病で亡くなり7歳ぐらいで一人前とされた、7歳までになくなる子が多くいたこと、「七つ八つは神の子」なんだと言っていた。「生きてくれてありがとう、これからも元気に生きて」と願い・お祝いをするのが七五三なのだと、諸説あるのですが私はそんなことを祖母から聞いて今も信じている。

保育の世界に入り、3歳・5歳・7歳の育ちで考えるとその節目には大きな成長の変化が現れていることを実感する。言葉の理解や発語は応答的になってくる、「あれをしよう、これをしよう、こんな工夫をしよう」と知恵がついてくる。5~6歳で6歳臼歯が生え、徐々に大人の歯に生え変わる。

認知、理解、行動が節目ごとにグレードUPしていく、保育で考える七五三と題して子どもの成長を理解してみようと考えてみれば、一冊の本が書きあがるくらいの内容が出てきそうである。



いずれにせよ、子どもたちの成長の節目をお祝いしてあげる機会は後世も伝えていきたいものです。未来を担う子どもたちの成長を大いにお祝いしてあげましょう。

## 歩き始めると好奇心が倍增

1歳の誕生日を迎えるころ、目が離せないと思った方は多くいるでしょう、はいはいし立ち上がり、歩き始めると目が離せないというより傍に釘付けになることもあるでしょう。

どンドンと活動範囲がひろがり、好奇心も旺盛、手あたり次第、周囲のものに反応する。気が付けば本棚の本はすべて引っ張り出され、ごみ箱はひっくり返され、せっかくたたんだ洗濯物はぐちゃぐちゃ、あげくに洗濯物の中で泳いでいるなんてこともあります。

ただ、よくみていると生後半年ぐらいの時のなんでも手あたりしだいとは異なっています。「〇〇を見つけようとしたり、何かの真似をしてみようとしたり、扱っている、または触れているものの意味を子どもなりに理解しようとしたりする姿がうかがえます。」

大人にとってはとても厄介なはずらも子どもにとっては「どれも新しい発見」であり探索的行動は自ら進んで行う創造的行動といえると思います。この時期は一時、大変な時も一時、この素晴らしい探索心に寄り添える視点を加えてみると少々のゆとりができることでしょう

(おおぞら保育園園長 廣部信隆)